

千葉市感染症発生動向調査情報

2021年 第25週 (6/21-6/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		25週	24週	23週	22週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	17	17	17
	眼科	5	5	5	5
	インフルエンザ*	27	27	27	27
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	6/21-6/27	6/14-6/20	6/7-6/13	5/31-6/6	6/14-6/20
			25週	24週	23週	22週	24週
小児科	RSウイルス感染症	↓	35 2.06	40 2.35	15 0.88	12 0.71	287 2.22
	咽頭結膜熱		1 0.06	3 0.18	4 0.24	1 0.06	24 0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		6 0.35	8 0.47	6 0.35	3 0.18	69 0.53
	感染性胃腸炎	○	65 3.82	54 3.18	41 2.41	39 2.29	268 2.08
	水痘		1 0.06	0 0.00	1 0.06	1 0.06	19 0.15
	手足口病		1 0.06	1 0.06	3 0.18	0 0.00	6 0.05
	伝染性紅斑		0 0.00	0 0.00	1 0.06	0 0.00	1 0.01
	突発性発しん		14 0.82	8 0.47	12 0.71	11 0.65	42 0.33
	ヘルパンギーナ		0 0.00	0 0.00	2 0.12	0 0.00	10 0.08
	流行性耳下腺炎		1 0.06	2 0.12	0 0.00	2 0.12	7 0.05
	インフル インフルエンザ*(高病原性鳥イン フルエンザを除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
眼 科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		0 0.00	1 0.20	0 0.00	1 0.20	7 0.21
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(116件)

※新型コロナウイルス感染症107件は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
腸管出血性 大腸菌感染症	女性	40歳代	病原体の分離・同定 及びベロ毒素の確認	梅毒	男性	30歳代	血清抗体の検出
	女性	70歳代		梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出
カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌 感染症	女性	10歳未満	細菌の分離・同定、 薬剤耐性の確認 及び起因菌の判定	梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出
				梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出
劇症型溶血性 レンサ球菌感染症	女性	70歳代	病原体の分離・同定	梅毒	女性	40歳代	血清抗体の検出
				新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代~70歳代	病原体遺伝子の検出等

・第25週は、腸管出血性大腸菌感染症2件(10)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(8)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(2)、梅毒5件(23)、新型コロナウイルス感染症107件(4964)の発生届があった。

※ ()内は2021年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第25週のコメント

＜RSウイルス感染症＞ 前週より減少したが、過去10年の同時期と比べると依然として最多のまま。区別の発生状況は、花見川区以外で発生報告があり、緑区(3.25)で最多、1歳で最も多かった。また、稲毛区、緑区及び美浜区では3歳以上の発生報告が見られた。

＜感染性胃腸炎＞ 前週より更に増加し、2021年の最多を更新した。年頭から増加傾向が継続している。区別の発生状況は、緑区(6.5)で最多で、2歳で最も多く発生報告があった。

トピック

＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞

第25週に1件の届出があり、2021年の累積数は2件となりました。第24週の全国の累積届出数は294件で、過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、愛知県(35件)、東京都(34件)、大阪府(18件)の順で多く報告されています。千葉県は5件で全国第19位となっています。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは、 β 溶血を示すレンサ球菌を原因として、突発的に発症して急激に進行する敗血症性ショック病態で、日常生活を営む状態から24時間以内に多臓器不全が完結する程度の進行を示す疾患です。通常無菌的である部位(血液、脳脊髄液、胸水、腹水、生検組織、手術創など)から β 溶血を示すレンサ球菌が検出され、かつショック症状に加え、肝不全、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC(播種性血管内凝固症候群)、軟部組織炎(壊死性筋膜炎を含む)、全身性紅斑性発疹、痙攣・意識消失などの中枢神経症状のうち2つ以上を伴う症例が届出対象となっています。原因となる β 溶血性レンサ球菌は主にA群溶血性レンサ球菌で、他にB群、C群、G群などがあります。

千葉市では、2011年から2021年第25週までに49件の届出があり、血清群別では2018年以降は従来から多かったA群に加えG群が増加しており、A群が23件(46.9%)、B群が5件(10.2%)、C群が1件(2.1%)、G群が15件(30.6%)、不明が5件(10.2%)となっています(図1)。年齢階級別の血清群は、10歳代～40歳代までは全てA群かA群が大半を占めていますが(60～100%)、70歳代以上ではG群が最も多くなっています(40.0%～75.0%)。血清群別の分布は、A群は10歳代から80歳代まで、G群は0歳代及び40歳代から90歳代までの幅広い年齢階級に分布していますが、B群は0歳代の1件を除いて70歳代から90歳代までの高齢者に偏っています(図2)。届出があった患者の血清群別の症状(ショック以外)は表のとおりとなっています。

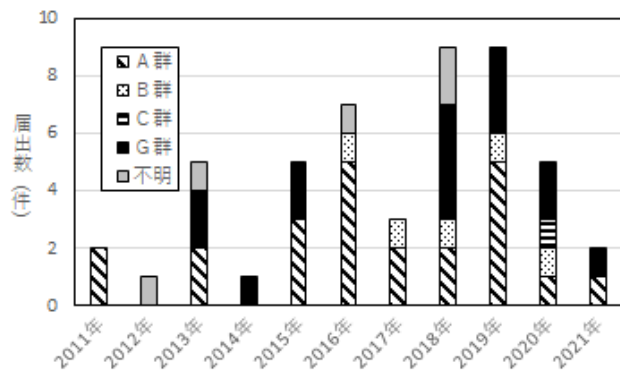


図1 届出数の推移(血清群別)
2011年-2021年第25週 n=49

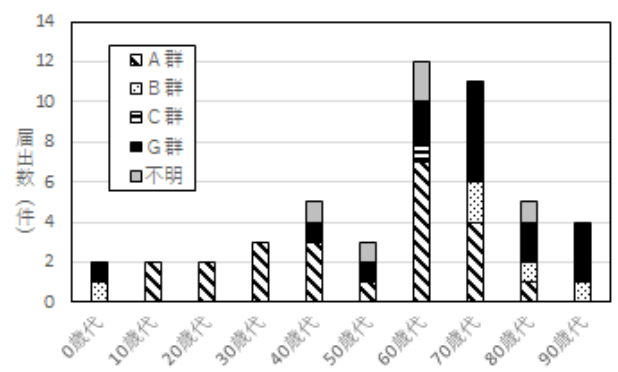


図2 年齢階級別・血清群別
2011年-2021年第25週 n=49

表 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の症状(血清群別) 2011年～2021年第25週：重複あり

血清群	届出数	肝不全		腎不全		急性呼吸窮迫症候群		DIC		軟部組織炎		全身性紅斑性発疹		中枢神経症状	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合	件数	割合
A群	23	3	13.0%	16	69.6%	4	17.4%	14	60.9%	16	69.6%	4	17.4%	5	21.7%
B群	5			1	20.0%	3	60.0%	3	60.0%	1	20.0%	1	20.0%	1	20.0%
C群	1	1	100%	1	100%	1	100%	1	100%						
G群	15	2	13.3%	8	53.3%	3	20.0%	8	53.3%	8	53.3%			6	40.0%
不明	5			3	60.0%			3	60.0%	2	40.0%	1	20.0%	1	20.0%

※ ショック症状は届出のために必要な臨床症状のため省略